

智頭病院だより

肺がん検診について

内科医師 有田 和正

がん検診を受けましょう

日本人の死亡原因として最も多い病気が悪性新生物（腫瘍）、いわゆる「がん」であることをご存知の人は多いと思います。日本人のおよそ4人に1人が、がんにより亡くなっています。

がんのなかでも肺がんが原因で亡くなる人は男女ともに多いです。もちろん、がんと診断されたとしても全ての人が亡くなられるわけではありません。ひと昔前と異なり、現在は治療技術の進歩によ

部位別 がん死亡者数の順位 (2020)

男性	女性
1位 肺 24%	1位 大腸 16%
2位 大腸 13%	2位 肺 14%
3位 胃 12%	3位 膵臓 12%

り、早期に治療を開始できれば治る病気になっていきます。無症状のうちに検診を受診すれば、がんが発見されたとしても早期である可能性が高いため、自覚症状がなくても検診を受けていただくことが大切です。そしてこれは肺がんだけでなく、他の臓器に対するがん検診でも同様です。現在の日本では、およそ男性の2人に1人、女性の3人に1人が生涯のうちにかんと診断されています。「症状がないから大丈夫だろう」、「今度の検診まで待とう」と自己判断せず、健康な生活を送るため、毎年がん検診を受けましょう。

検診の内容

肺がんの一次検診では、問診と肺X線検査を行います。喫煙歴が長い人は痰の検査も併用します。その一次検診で精密検査と診断された人は二次検診（精密検査）を専門医療機関で受けていただくこととなります。ここでも注意ですが、

精密検査が必要!! 「がん」ではありません。精密検査は追加の検査を行って、さらに詳しく調べる検査であり、精密検査を受けた人のうち、実際にがんと診断される



のは100人中1人程度となっています。肺がんの二次検診では、胸部CT検査や気管支鏡検査（鎮静薬を用いて眠っている間に気管にカメラを挿入し直接観察、病変部の組織を採取します）を行います。肺X線検査や胸部CT検査は特に痛みを伴う検査ではなく、数分で終了します。

検診の結果とその後

検診結果が「異常なし」だった場合、今回の検診結果では心配する点はありませんが、これは現在肺がんが「全くない」ということではありません。がんのサイズがかなり小さい場合、検診を受けたタイミングでは見つけれないことがあります。長引く咳、血痰、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状があらわれた場合は、次回の検診を待つのではなく、すぐに医療機関を受診してください。そしてその後毎年1回はがん検診を受けましょう。

